東日本大震災に思う

同窓会会長 有田 和男 (31回)

*はじめに・・・・・

最初に、東日本大震災で被害に遭われた同窓生の皆様 に、同窓会として心からのお見舞いを申し上げます。

2011.3.11夢想だにしなかった大地震と大津波に、原発の大事故が重なりました。遠く離れた吾々は、何かしなければ、では何が出来るのかと、ただ茫然自失の態で、無力感と焦燥感ばかりが募りました。

その日の夜に、東日本在住の同窓生の安否を先ず確認したいと、「東京甲陽ネット」の事務局に連絡を入れました。その後、同窓生並びにご家族の皆様には、生命に関わる被害はないとの連絡を、色々なルートをとおして頂戴しました。これで先ず、ホッと一安心をしました。しかし、多くの同窓生の住居・家具などの被害、そして原発事故からの避難は、その後の余震の続くなか、相当に酷い状態が続いているとの話も聞かされています。

更には、新聞・テレビなどから、正視する事が出来ないほどの被害の甚大さを見せつけられ、ただ驚愕するばかりでした。原発の事故も、いつ無事に終焉を迎えるか、不安と心配が募るばかりであります。

阪神間にある吾が母校は、あの阪神大震災に遭遇しました。吾々は、阪神大震災では内側にいました。同窓生の多くは直接に大きな被害を受けました。その為に、あの時の同窓会は機能を失い、残念な事でしたが全く動く事が出来なかったと記憶しています。

東日本大震災は、遠く離れた外側にあり、同窓生の情報の収集には、保ならない面もありましたが、同窓生の無事だけは確認させて頂きました。

私は、あの敗戦で生き残り、今度は阪神大震災でも生かされたとの思いを強く持っています。今回の東日本大震災に直面して、同窓会として何を為すべきか、同窓生の皆様から多くのご意見が寄せられました。それを集約しまして、次のとおり提案させて頂きました。

*義援金の拠出について・・・・・

先の役員総会で、同窓会として東日本大震災に対して、「義援金100万円の拠出」を提案して、満場一致で承認されました。その時期・相手先・方法については、常務理事会に一任をされました。

常務理事会で同窓会が持つ性格などを考えまして、阪神大震災をはじめとする災害や病気などで、親を失った子供を支援する「あしなが育英会」に、災害遺児の教育資金として拠出することを決定しました。

今回の大震災で、親を失った遺児の数は、同会の調査で1,100人を上回り、阪神大震災の573人の倍の数になっています。同会が呼びかける遺児支援募金には、予想を超え17億円が集まり、既に支給を始めていると聞いています。

今回の拠出金は、夏の会員総会 で募る義援金をプラスして、同会 にお渡しする予定でおります。

*夏の会員総会・・・・・

今年の会員総会は、例年と違い 8月28日の日曜日の開催となります。 その詳細は16頁に記載のとおり、 一部の講演には「アルツハイマー」 の治療で、二度にわたり米国から 権威ある賞を受けられた、東京大 学大学院医学系研究科の教授をさ れている岩坪威(59回生)氏を招き、 貴重なお話しをして頂きます。

二部では、新しい催しを企画しています。特に、仙台市内の自宅

発 行 所 〒662-0096 西宮市角石町3-138 甲陽学院同窓会 _{発行人}有田和男

印刷所 株式会社小西印刷所 西宮市今津西浜町2番60号 TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用 TEL 0798-71-4888 (月·水·木·金 10:00~16:00) FAX 0798-71-4890 E-mail:

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

が被災された東北大学大学院医学系研究科で助教をされている長谷川隆文(69回生)氏を招き、被災地の医療現場の現状を発信して頂く予定でおります。その他に盛り沢山な企画を練って頂き、運営委員会の委員の皆さんに、多大なご苦労をお掛けしています。

*自分に思うこと・・・・・

最近になって気付いたのですが、書物に対する答えの 求め方と云うか、その傾向が変わったように思えます。 私の読書は、甲陽時代に阿部次郎の「三太郎の日記」に 触発されてからです。この時は、何かを求めて背伸びし ながらも、前向きな姿勢で読んでいたと思います。

これには、もう一つの理由があり、小泉信三の「読書論」であったか、一冊の分厚い書物を読めば、自分の顔付きが進化する、と著してあったのが動機であったと記憶しています。丁度、青春の血が燃え始めた頃です。

80歳の大台に乗った今、何か現実を忘却するために、 慌ただしく読書をしているように思えてなりません。



Superbly located for business or pleasure.

www.novotelkoshien.com



西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111

ノボテル甲子園



ドキュメント | 東日本大震災の医療現場 | | | |

東北大学大学院医学系研究科 神経感覚器病態学講座神経内科学分野 助教(病棟医長) **長谷川 隆文**(69回)

私は宮城県仙台市にある東北大学病院の神経内科学 教室で診療および研究活動に従事している一内科医院 ある。震災当日の朝、私は宮城県北部にある関連病院 で外来診療に従事していた。遅い昼食を済ませ午後き 護療を初めたところ、突然経験したことの無い大きに 横揺れを感じた。揺れは経々に基中を立て始めた。 横揺れを感じた。揺れな所でが折れ水が降り注いコンマ に亀裂が入り、天井の配管が折れ水が降り沿い立った 時にはさすがに命の危険を感じた。机のパソコってと 時にはさすがに転げ落ち、壊まじい揺れに立った りンターは床に転げ落ち、凄まじい活れたため りことも出来ない状況が数分間続いた。数分おさ とも はたい状況が数かもあると判断されたため を まず入して入院・外来患者全てを大学病院に連絡を で協力した。安否確認のため家族や大学病院に連絡を るうとしたが電話は全く繋がらなかった。一方スマー

トフォンからのインターネット接続は可能であり、す

ぐに三陸沖を震源とする巨大地震が発生したことを知

ることが出来た。検索画面には東北地方太平洋沿岸部

に十数メートルを超す巨大津波が到来することが表示 され、咄嗟にこれから起こるであろう前代未聞の惨事

に身震いを感じた。

車に乗り仙台に向かったものの高速道路は通行止め、 信号機は停電で消え道路は大渋滞となっており、停電 で真っ暗となったコンビニには飲料水や食料を買い求 める人々が殺到していた。カーラジオのニュースは、 沿岸部に十数メートルの津波が到来、津波は河川を逆 流して内陸部に至るまで甚大な被害が生じていること を伝えていた。段差や亀裂が生じた道路を迂回しなが ら5時間以上かけて大学病院に戻ったところ、停電の ため人工呼吸器のバッテリーが切れた在宅療養患者が 続々と運ばれて来ていた。エレベーターは停電とワイ ヤー切断で動いておらず、担架に乗せた患者を汗だく になりながら階段を使って何度も搬送した。建物のあ ちこちに亀裂が入り、一部では割れたコンクリートが 散乱し壁越しに屋外が見えている状況であった。停電 で真っ暗な医局に戻ると、部屋の中は書類や棚が散乱 し足の踏み場もない状況で、実験室からは庫内温度の 上昇を警告する冷蔵・冷凍庫のアラーム音が鳴り響い ていた。(写真1)



(写真1) 震災後の医局の様子

夜が明けて警察や自衛隊の捜索が始まると、宮城、 福島、岩手県の沿岸部一帯の市町村は壊滅状態で、数 百体~数千体の遺体が発見されたとの情報が入ってき た。被災地からは自衛隊のヘリやトラックで数十人単 位の患者が搬送され、各科総出で診療科の垣根を越え 不眠不休の診療に従事した。震災直後は津波に飲まれ 溺水となった方が搬送されてきたが、その数は思った より少なかった。直下型地震で倒壊した建物による外 傷が多かった阪神大震災と比べ、今回の大震災での犠 牲者の殆どは巨大津波に飲まれた方々であり、一瞬に して生死が決まってしまったという状況が多かったた めと推定される。震災発生から数日が経過すると内服 薬を紛失し体調を崩した高血圧、糖尿病、パーキンソ ン病など慢性疾患の患者さんが続々と搬送される様に なった。またこれと並行して震災後から脱水や避難所 での寝たきり生活に起因する脳梗塞、衛生状況悪化に 起因する肺炎、尿路感染、破傷風、髄膜炎などの感染 症が急激に増加していった。屋内で使用した自家発電 機の排ガスで一酸化炭素中毒になった被災者も少なく なかった。5月連休以降、震災関連患者は減少傾向に向 かったが、被災地には今もなお微生物を多く含み悪臭 を放つ汚泥が大量に堆積している。今後湿度・気温の 上昇により、細菌やウイルスの発生が助長され、各種 感染症や食中毒などが発生する可能性が高く、注意が 必要と推察される。



(写真2) 石巻沿岸部

私は震災前から大学での診療の傍ら、沿岸部の被災地である宮城県石巻市の関連病院に週一回応援に通っている。震災後3ヶ月が過ぎ、市内中心部や幹線道路の復帰は進んでいるが、一つ脇道に入れば震災直後のままの変わり果てた町の姿が今も残っている(写真2、3)。以前子供達が走り回っていた道路脇のグラウンドには火葬が追いつかず土葬となった犠牲者の方々が埋葬され、番号を付した卒塔婆と菊の花が整然と並んでいる。教科書でしかみたことのない、まさに戦後の焼け野原同様の光景が眼前に広がっている。被災地の病院でいつも担当していた患者さんと再開する度無事を喜び合うも、一瞬にして肉親や家屋、財産、職を失っ

た人々の心身は今なお激しく傷付いた状態にある。今 回の震災では行方不明者が数千人と莫大である。「遠方 に集団移住すればどうか」と提案する人もいるが、 日々汚泥やがれきをさらい行方不明の家族を探し続け ている被災者が、そう簡単に気持ちの整理をつけこの 場を離れることが出来るはずもあるまい。



(写真3) 石巻駅前アーケード

多くの自然災害は発生後は一路復興へと向かうものであるが、今回は福島原発事故による放射性物質漏洩により、被害が現在進行形である点も非常に深刻である。私の住んでいる仙台市は福島第一原発から94kmと100km圏内にあり、宮城県内でも福島県に近い県南部を中心に通常よりかなり高い放射線レベルが観測されている。子をもつ親の一人として、憂慮すべき事態であ

るのはいうまでもない。医療機関でのX線・CT検査などで受ける被曝線量との対比で「心配ない、大丈夫だ」と伝えている識者や政治家を多く目にするが、一過性に放射線を受ける上記検査と、数十年以上放射線を出し続ける放射性物質を体内に取り込む内部被曝では出る放射性物質を体内に取り込む内部被曝では全く話が異なる。爆発により大気中に飛散した放射性物質による飲料水、農作物や家畜の汚染も深刻であるが、原子炉からは大量の高濃度汚染水が直接太平洋あるが、原子炉からは大量の高濃度汚染水が直接太平洋あるが、ないでおり、既に多くの海洋生物汚染が確認されている。海流や魚類の回遊がからむ海洋汚染の悪化も懸念される。各行政機関にはより精緻な情報収集・開示と具体的対策の提示を強く望みたい。

以上、震災発生から現在に至る状況を一医療者として見てきた感想を述べさせて頂いた。これまで不自由ない安定した日常生活を空気の如く思ってきたが、一度自然が牙をむけば、人間の力など全く及ばずあっけなく崩壊してしまうことを痛感させられた。復興には年単位の期間がかかることが予想され、原発問題なりた行き不透明な懸念材料も残ってはいるが、国内外はと先行き不透明な懸念材料も残ってはいるが、現場の状況は没速ではあるが確実によい方向に向かっている。もでいるがではあるが、一人でも多くの方のお役に立てる様、これからも被災地での医療活動に取り組んでゆきたい。

■あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を 同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成23年5月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例:終身会員H20年度 ◀

 > 卒 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0 0 終

①枠の上には、前納の年度、または、終身会費を お支払い頂いた年度を示しています。その他の 場合、この表示はありません。

② 枠内には、順に平成元年度、2年度、…23年度の 年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	Þ	甲陽学院を卒業するまでの年
0	当該年度分の年会費を未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、<u>枠内に含まれるOの個数 × 年会費</u>が、未納の年会費となります。 同封の振り込み用紙にてお支払い下さい。

★H元年以降にご卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。 次の2つの例をご参照下さい。

1111	♪ ♪ ♪ 卒 1	1 1 1 1 1	0 0 0 0 0
0 0			

H16以降は未納です。 未納分をお納め下さい。

♪	♪	Þ	Þ	♪		Þ	Þ	Þ	Þ	Þ	Þ	Þ	Þ	Þ	卒	1	1	1	1	1
1					1															

H15年3月にご卒業、さらに1年分の年会費を 頂いたので、H22年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、 そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合せ下さい。

会 務 報 告

平成22年度の会務につきまして、平成23年4月28日に開催されました役員総会の議事を要約しご報告します。

▼成22年度会務報告

会報編集委員会から82号・83号を発行したことについて報告がありました。次に、会員総会運営委員会から昨年8月28日の会員総会についての報告が続きました(内容は83号に掲載のものと同じ)。さらに、甲陽ファンド管理委員会の報告(内容は3頁)、IT委員会の報告がありました。IT委員会では「同窓会ホームページ」の立ち上げへ向けて作業中とのことでした。

2 平成22年度決算報告・監査報告

下に掲載の決算報告書の説明と水島監事からの監査報告のあと、平成22年度決算が承認されました。

3 平成23年度活動方針と予算

れました。

活動方針としては、会報を2回発行する、夏の会員総会を8月28日の日曜開催にする、奨学金ファンドの充実をめざして母校の95周年(来年)を記念する事業として展開することを検討する、同窓会ホームページの充実を図る、地域甲陽会の運営に協力する、母校創立95周年の記念事業を行う準備をする、時代の変化を受けて会則の見直しについても検討を行いたい、などが説明されました。その上で、下に掲載の予算書の説明が行われ、承認さ

● 平成22年度 決算報告書 ●

		Film =	0.00	– 1⁻/ /	[支出の部]								
		[収入											
科目	\rightarrow	決算額	予 算 額	差引額	和	_	<u> </u>	決算額	予算額				
	費	10,223,000	8,700,000	1,523,000	人	件		2,104,040	2,136,000	△31,960			
年 会	費	1,255000	1,000,000	255,000	月一	手	当	1,536,000	1,536,000	0			
終身会	_	2,358,000	1,400,000	958,000		•	当	320,000	320,000	0			
新卒入会	_	1,218,000	1,200,000	18,000	通	勤	費	248,040	280,000	△31,960			
新卒年会	_	2,842,000	2,800,000	42,000	_	18	***	•	100.000	. 100 000			
新卒終身会	質	2,550,000	2,300,000	250,000	交	通	費	0	100,000	△100,000			
	\dashv				需	要	費	588.848	1.080.000	△491.152			
会報広告	魁	60,000	60,000	0	通	信	費	408,977	500,000	△91,023			
総会会費収	-	887,500	1,200,000	△312,500	事務			55,451	50,000	5.451			
利子収	_	32,236	40,000	△7,764	備	品品	費	00,401	180,000	△180,000			
ストラップリ	$\overline{}$	25,200	0	25,200		_	系費	124,420	350,000	△225,580			
	ì	4.000	0	4.000	会	議	費	2.009.460	2.600,000	△590,540			
	金	0	0	0			会費	1,059,316	1,500,000	△440,684			
	_				_		会費	234,009	250,000	△15,991			
収入合	j†	11,231,936	10,000,000	1,231,936	理	事 纟	: 費	285,658	250,000	35,658			
特別積立金線	λ	0	0	0	委	員 会	: 費	230,091	350,000	△119,909			
基本金解	約				懇	談分	: 費	200,386	250,000	△49,614			
繰 越	金	16,395,739	16,395,739	0	事	業	費	3,569,594	3,740,000	△170,406			
					甲隊	景だ	より	1,039,659	950,000	89,659			
合	計	27,627,675	26,395,739	1,231,936	郵	送	料	1,436,778	1,550,000	△113,222			
⊚⊔ევ	生	日士口珥左	現預金残高	FORKM	振	替月	月紙	135,859	140,000	△4,141			
					封		筒	206,515	200,000	6,515			
		銀行(普通列		8,179円	記	念	品	556,625	600,000	△43,375			
	史 ソ	局(普通預金	ェ) では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	5,039円	_		援費	110,000	200,000	△90,000			
			15,04 頁金) 1,29		_	(活)	動費	84,158	100,000	△15,842			
*手持				9,141円	雑		費	141,560	290,000	△148,440			
	坎				校	内	志	30,000	40,000	△10,000			
合	=	計		2,133円			の他	15,000	100,000	△85,000			
甲陽F系			/6	7,960円	振	替	料	83,980	100,000	△16,020			
		/ド通帳へ 		円	その	他和	経費	12,580	50,000	△37,420			
合		計	19,18	4,173円	_	^	=1	0.410.500	0.040.000	. 1 500 400			
平成23	年4	4月18日			_	出合		8,413,502	9,946,000				
本日、会計					特別	積立金	禄人	30,000	30,000	0			
			を、ここに確認	いたしました。	201	1+4	## T	0	0	0			
					新 <u>年</u>	体金備	群人 曹	0	_				
監	事	善野牙	せ郎 ⑩			ME	只	U	10,413,733	10,410,738			
		水 島	昇 ⑪		支	出総	i	8.443.502	26 395 739	△17,952,237			
		植木	努 ⑩		⊢×	山脈	p p l	0,440,002	LU,U3U,738				
					IJΫ	入総	<u>+</u>	27,657,675					
					_	出総		8,443,502					
					_	引繰		19,184,173					
						- 1700		.,,,,,,,					

(単位:円)

4 予備費から100万円を義援金に支出

その他の事項として、先の東日本大震災の被災者に対して同窓会から義援金を送りたいとの緊急提案が会長よりありました。金額は100万円、同窓会一般会計の予備費から支出、送り先は今後常務理事会で検討する、という内容で、一同より承認されました。(後日、常務理事会で「あしなが育英会」への寄付を決定しました。)

終身会費納付額設定表(平成23年4月1日~平成24年3月31日まで)

920~860	30,000円	72回	37,000円	58回	23,000円
85回	50,000円	71回	36,000円	57回	22,000円
84回	49,000円	70回	35,000円	56回	21,000円
83回	48,000円	69回	34,000円	55回	20,000円
82回	47,000円	68回	33,000円	54回	19,000円
81回	46,000円	67回	32,000円	53回	18,000円
80回	45,000円	66回	31,000円	52回	17,000円
79回	44,000円	65回	30,000円	51回	16,000円
78回	43,000円	64回	29,000円	50回	15,000円
77回	42,000円	63回	28,000円	49回	14,000円
76回	41,000円	62回	27,000円	48回	13,000円
75回	40,000円	61回	26,000円	47回	12,000円
74回	39,000円	60回	25,000円	46回	11,000円
73回	38,000円	59回	24,000円	45回~	10,000円

平成23年度 予算書

			LIID J	の部]	V= 3 1	_			支出	Ω ≌[]	
		_				_		_			
科	1 1	<u> </u>	H23年度		H22年度予算	_	_	<u> </u>	H23年度		H22年度予算
会		費	8,700,000	10,223,000	8,700,000	人	件	費	2,106,000	2,104,040	2,136,000
年	会	費	1,000,000	1,255,000	1,000,000	月一	手		1,536,000	1,536,000	1,536,000
_		> 費	1,400,000	2,358,000	1,400,000	-		手 当	320,000	320,000	320,000
_		会金	1,200,000	1,218,000	1,200,000	通	勤	費	250,000	248,040	280,000
		会費	2,800,000	2,842,000	2,800,000	_					
新卒	終身	会費	2,300,000	2,550,000	2,300,000	交	通	費	100,000	0	100,000
						_	_				
						需	要	費	1,150,000	588,848	1,080,000
	広台		60,000	60,000	60,000	通	信		500,000	408,977	500,000
	会費		1,000,000	867,500	1,200,000	_		品費	50,000	55,451	50,000
	子巾		40,000	32,236	40,000	備	品		100,000	0	180,000
スト		_	0	25,200	0	_		系費	500,000	124,420	350,000
雑	収	λ	0	4,000	0	会		費	2,250,000	2,009,460	2,600,000
寄	付	金	0	0	0			会費	1,200,000	1,059,316	1,500,000
								会費	250,000	234,009	250,000
収.	入合	ì計	9,800,000	11,211,936	10,000,000	_	_	会 費	250,000	285,658	250,000
								会 費	300,000	230,091	350,000
						懇	談:	会 費	250,000	200,386	250,000
繰	越	金	19,184,173	16,395,739	16,395,739	_	業		3,690,000	3,569,594	3,740,000
						甲	易だ	より	1,000,000	1,039,659	950,000
収.	入総	計	28,984,173	27,607,675	26,395,739	郵	送	料	1,500,000	1,436,778	1,550,000
						振	替丿	刊 紙	140,000	135,859	140,000
						封		筒	200,000	206,515	200,000
						記	念	品	500,000	556,625	600,000
						母相	交後	援費	200,000	110,000	200,000
						地地	或活	動費	150,000	84,158	100,000
						雑		費	290,000	141,560	290,000
						校	内		40,000	30,000	40,000
						慶	吊そ	の他	100,000	15,000	100,000
						振	替	料	100,000	83,980	100,000
						その	他名	経費	50,000	12,580	50,000
						支	出台	信台	9,586,000	8,413,502	9,946,000
						特別	積立	全繰入	30,0000	30,000	30,000
						新星	本	繰入	15,000,000	0	0
						予	備	費	4,368,173	0	16,419,739
						支	出翁	計	28,984,173	8,443,502	26,395,739
											(単位:円)

(単位:円)

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醵金者一覧

平成23年1月1日以降5月31日までにファンドに醵金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。 まことにありがとうございました。(平成22年12月31日以前に醵金された方は73号~83号に掲載しております。)

18回	森本 浩	38回	高寺	美慈	53回	細井	正弘	61回	勝	清行
18回	今野 英一	38回	松林	輝芳	54回	中野	茂	61回	林	亮司
20回	川島 茂	38回	三木	則夫	54回	前田	-	62回	長宅	芳男
20回	日下洋仁郎	38回	佐藤	康人	54回	湯川	英彦	62回	松木	洋
21回	細川 茂樹	39回	榊	靖夫	55回	桜井	太郎	63回	高見	俊浩
24回	内田 秀男	39回	前田	直孝	55回	浜川	一郎	63回	徳島	正敏
25回	高井 敏昭	40回	中川	徹	55回	御手沒	光 毅	64回	岡原	正周
27回	光野 昭	42回	奥山	純	56回	奥平	晃久	64回	谷本	修
31回	富士川真二郎	42回	河野	弘志	56回	柿木	達也	65回	植木	努
31回	八木 頼夫	43回	衣笠	隆之	56回	坂野	康郎	72回	小西	洋平
33回	二宮 一明	43回	藤本	勝司	56回	坂本	智彦	72回	光本	宏司
33回	森下 哲志	45回	岡本	定行	56回	佐野	隆夫	74回	徳岡	俊治
33回	森本 数一	45回	小林	智夫	56回	西内	宏	78回	大村	公一
33回	若田雄太郎	45回	中島	裕之	56回	平井	晴巳	82回	山本	祐己
34回	鈴木 博信	46回	近藤	宏	57回	白尾	誠二	91回	音野	宏樹
34回	中作 弘	46回	堀口	貞茲	57回	中村	卓司	92回	松本	伊織
34回	横内 昭	46回	松尾	起志	59回	島本	佳憲	工専1	太田	唯男
35回	尾山 啓二	47回	栗田	和夫	59回	藤井	謙悟	高商1	田中	芳雄
35回	国領 薫	48回	棟広	隆夫	60回	市川	諭	高商2	滝川鹭	登司郎
36回	福田 達	51回	井阪	博	60回	高井	裕之			
38回	岩城耕一郎	52回	土居	章展	60回	籾山	卓哉			

毎号毎号同じようなお願いばかりで恐縮ですが、今回も奨学金ファンドへのご協力をお願い申し上げます。

このファンドは、平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を始めました。 奨学生は、定期採用6名(各学年1名)と緊急採用(中学2名まで、高校2名まで)で、その選考は母校に一任しております。平成22年度は9名の在校生に奨学金(1人年間20万円)を支給いたしました。また、平成18年度からでは延べ37名の生徒が本奨学金を受給しました。

昨今の社会・経済情勢は、甲陽の生徒・保護者にとっても決して無縁ではなく、会社の倒産、リストラ、離婚など、母校の後輩たちを取り巻く環境は、良好とばかりは言えません。<u>本奨学金制度は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものとなっています。</u>

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が必要なことは申すまでもありません。将来的には 1億円にという目標を掲げてまいりましたが、平成23年3月までの醵金総額は約4947万円となっております。また 平成22年度だけでは約314万円であり、やや低調になってきたかもしれません。

醵金方法は下の通りです。一口1万円から何口でも結構です。また、一度ならず何度も醵金下さる方も大勢いらっしゃいます。ありがとうございます。なお税法上の寄付控除の対象にはなりません。

皆様ご存じのように、母校甲陽学院には、保護者・卒業生からの寄付を募集しないという誇り高い方針があります。そんな中で、<u>奨学金ファンドは、同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。</u>皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

[醵金方法]

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醵金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
 - (2) の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

学校だより





お世話になりました

今春、伊東良孝先生、吉田敏美先生、杉下健二先生、 藤澤安貴夫先生、工藤駿先生、碇健雄先生の6名の方 が母校を退職されました。

伊東良孝先生は1990年から21年間社会を担当され、 引き続き講師として教壇に立たれておられます。吉田 敏美先生は1994年から17年間数学を担当されました。 杉下健二先生は2008年から3年間国語を担当されまし た。藤澤安貴夫先生は2009年2年間保健体育を担当さ れました。工藤駿先生は2010年から1年間社会を担当 されました。碇健雄先生は2010年から1年間音楽を担 当されました。長い間ありがとうございました。

吉田敏美先生からご挨拶を頂きましたので掲載いた します。

~17年間を振り返って~





勤務した17年間を振り返 っての雑感を述べて退職の 挨拶に代えたいと思います。

平成6年4月に着任、最 初は明石市からの通勤で、 だんだんと疲労が蓄積する ような感じでした。「早く学 校の近くに転居を」と考えて 探しましたが上手く行かず、

やっと12月に魚崎北町に転居でき ましたが、その1ヶ月後、阪神大震災に遭遇した次第 です。甲陽に着任して1年目で、地に足がついてない 状態ではなかったかと思い出されます。

平成8年4月から83回生を妙島、河田両先生ととも に担当しました。私にとって、甲陽で初めての担任で あったので、何事も新鮮であり、体力のあるかぎり数 学の指導や部活(野球部)に打ち込めたのではないか と思います。

高校からは学年主任となりましたが、今考えると、 色々なトラブルを処理することに追われたという感じ のみ残っています。なお、将棋部の創部のために行っ た山下貴史君の全校集会での迫力ある演説は感心させ られた一コマであったと思います。83回生について総 括すれば、教師側の力不足と阪神大震災で生徒の気持 ちが少し荒れていたことが、「音展」や「入試の結果」 に出たのではないかと思えてなりません。

83回生を卒業させてすぐに89回生の学年主任となっ

たわけですが、中学の間で1番の心配ごとは「この学 年は甲関戦で全敗するのでは という噂が 2 年生頃か ら流れたことです。3年生となって、私の中ではかな りプレッシャーとなりました。結果的には卓球部と陸 上部が勝ち、何とか面目を保つことができました。な お、中学入学の165名の生徒全員が高校に進学したこと は、この学年の評価すべき点でなかったかと思ってい ます。高校では、何といっても、3年次の合唱コンク ールが一番印象に残っています。D組の中野直人君を 中心とした合唱練習が他のクラスにもよい刺激を与え、 学年全体が盛り上がったことは、この17年間で一番感 激させられ、今後も甲陽といえば1番目にこのことを 思い出すことでしょう。

97回生(現中学2年)のみなさん元気にやっています か。知力、体力、精神力を成長されるように努力を続 けましょう。私の方は、昨年7月に腰痛が始まり、こ の3月まで体調不良の状態できました。いまは少し余 裕もでき元気に日々を送っています。

最後に、健康上の理由で定年2年前に退職したこと を深くお詫びし、甲陽学院と同窓会が益々発展される ことをお祈り申し上げます。

妙島副校長 兵庫県功労者に

母校の妙島秋男副校長が、このたび教育功労者とし て兵庫県から表彰されました。妙島先生は1979年に国 語科の教諭として甲陽学院に着任され、2000年から中 学校教頭、2009年から副校長を務めておられます。

越山弘規君 高3 国際数学オリンピック 2年連続出場へ

本学院高校3年生の越山弘規君が、去る2月11日に 行われた第21回日本数学オリンピックにて最優秀賞で ある川井杯・金賞を受賞しました。またそれを受けて 第23回アジア太平洋数学オリンピックの代表選手に選 ばれ、第52回国際数学オリンピックの日本代表選手を 決定する合宿に参加し、見事代表に選出されました。

越山君は昨年行われた第51回国際数学オリンピック (カザフスタン大会) にも日本代表として出場し銀メダル を獲得しており、これで2年連続出場という快挙を達 成しました。

今回は7月にオランダで開催される予定で、最後の 挑戦となる今年の大会では金メダルの獲得が大いに期 待されます。



学校だより



高等学校パレーボール部(全国私学大会および近畿大会出場決定)

昨年の12月に開催された第29回近畿私学大会での成績により、「第16回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会」に出場が決定しました。当初は4月に東京で開催の予定でしたが、東日本大震災の影響により8月に開催が延期されました。また、5月に行われた県総体で5位(ベスト8)になり、「平成23年度近畿高等学校バレーボール優勝大会」への出場も決定しました。県総体では、3日間ともそれぞれの役割を責任を持って果たし、チームとして引き締まった戦いができ、このような結果が得られたと思います。

現在、夏の近畿大会 $(7/23\sim7/25:$ 和歌山) および全国私学大会 $(8/13\sim8/16:$ 東京) に向けて、19名 (3 年生 5 名、2 年生 7 名、1 年生 7 名)で活動を行っています。これらの大会でも甲陽らしい戦いをしたいと考えております。これまでと同様、応援よろしくお願いします。

*県総体の結果

2回戦 ○ (2-0) 明石高専

3 回戦 ○ (2-0) 北須磨高校

4回戦 ○ (2-0) 神港学園神港高校

準々決勝● (0-2) 社高校

五位入賞 (ベスト8) 優秀選手:長田悠佑 (3年)

*平成23年度山口国体の選手に、2年生の上野素希君が選出されました。



高等学校将棋部

全国高等学校将棋選手権大会出場決定

こんにちは。将棋部部長3年市川椋です。このたび県高等学校将棋選手権大会団体戦で優勝し、団体戦初の全国大会 出場権を獲得できたことを「甲陽だより」で報告できることを光栄に思います。

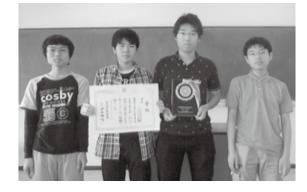
これまで兵庫県では灘高校が全国大会でも優勝経験があるほどの超強豪で、いいところまで勝ち進んでも結局は灘の壁に跳ね返され悔しい思いをしてきました。だからこそ、僕自身最後の大会である今回の大会で何としてでも灘に勝ちたいと思い頑張ってきました。

今回の団体戦は3人1組で結成され、各チームの大将、副将、三将同士が対局し、2勝以上すれば勝ちというルールで行われました。今回は県内から計36チームが参加し、僕たちもAチーム(市川椋3年、田中佑一2年、森田雅博1年)、Bチーム(脇本一輝2年、宮内優2年、中田悠貴3年)の2チームが出場しました。2チームとも予選は3戦全勝で通過でき、決勝トーナメントには灘、甲陽、白陵がそれぞれ2チーム、淳心、御影、市川高校の9チームが進出しました。トーナメント初戦はなんと甲陽同士の対戦となってしまい残念でした。準決勝は白陵高校との対戦でした。苦しい局面も数多くありましたが、勝てたのは幸運でした。決勝は準決勝で灘高校を撃破した淳心高校との対戦でした。淳心高校は山田君という兄弟の強豪を擁する相手で、予想通りの厳しい戦いでしたが最後は僕が大将戦をぎりぎりで制することができ幸運でした。結局ライバル視していた灘高校とはあたりませんでしたが、甲陽将棋部史上初の選手権団体戦優勝

を達成できたことはこの上なく嬉しく思います。やはり、チーム で勝つことは個人で勝つ以上の素晴らしさがあることを心から実 感することができ、記録にも記憶にも残る大会となりました。

全国大会は8月4、5日に福島県郡山市で行われる予定です。 兵庫県からは、前回大会全国優勝の灘高校と僕たちが出場します。 福島県はこの度の震災で甚大な被害を受けているなか、自分たち は好きな将棋に熱中できるということを幸せなことだと思い、自 分たちの全力をだし切れるよう努力していきたいです。また、今 回の優勝を祝って先輩方に祝勝会を開いていただきました。先輩 方、そして学校の期待に応えられるように精一杯がんばりたいで す。「全国制覇」を目指して行ってきます。

将棋部部長 3年 市川椋





江嵜健一郎 (38回)

第19回 リレー随想

日米繊維交渉の顛末

はじめに

ウイキリークスが、もし40年前に存在しておれば、佐藤栄作首相とリチャード・ニクソン米大統領の間に交わされた密約が、ひょっとしたらリークされ、69年から71年にかけて3年の長きにわたり繰り広げられた不毛の日米繊維戦争も、71年の2度のニクソンショック、7月15日の訪中宣言、8月15日のドルショックも、さらに飛躍して言えば、その後起こったロッキード事件も歴史の舞台に登場しなかったかもしれないと勝手に想像している。

71年8月15日、たまたま住んでいたバージニア州ホールスチャーチのアパートでお昼のニュースをテレビで見ていた。ニクソン米大統領の顔が画面一杯に現れ、ドル紙幣と金の兌換停止を宣言、1ドル=360円だったドルは同308円へ変更された。1ドル=80円である現在、米ドルは40年間で紆余曲折はあったが、当時の22%にまで減価している。

1969年3月、筆者は、たまたま米国の首都、ワシントンDCに、語学研修生としてやって来た。これも又、たまたまだが、到着3日目に語学学校の下宿先裏にあった大聖堂(National Cathedoral)で、アイゼンハワー元米大統領の葬儀が執り行われた。葬列の中にひときわ長身の軍服姿の仏ドゴール大統領を見つけた。昨日の出来事のように鮮明に記憶している。

ワシントンDCは縦横4キロ正方形の特別区である。春にはポトマック湾入江には尾崎咢堂が贈った桜が満開、恒例の桜祭りパレードを楽しむ。ホワイトハウス、国会議事堂、スミソニアン博物館、美術館が並ぶ世界有数の観光スポットである。その一方で、街のほとんどは黒人中心にマイノリティーが占拠している。当時ベトナム戦争渦中でもあり、しばしば暴動が起り、焼け跡が放置されていた。殺人、レイプは日常茶飯事で、ワシントンBCは当時、そう言う街でもあった。

たまたま語学研修生としてワシントンにやって来た男が、69年3月から72年3月まで、丸3年駐在することになったのである。これ全て、ワシントンDCを舞台にして展開された日本とアメリカ両国政府間の繊維交渉がこじれにこじれた結果に過ぎない。

佐藤ニクソン密約は米大統領選挙の落し子

日米繊維交渉は、佐藤総理が、最後の切り札として起用した当時通産大臣、田中角栄氏が日米の繊維業界を救済することを条件に、アメリカの繊維業界が当初期待した内容に近い形で71年10月決着した。沖縄を返還することに政治生命をかけた佐藤総理、米繊維業界のお陰で米大統領になったニクソンとの関係を揶揄して、「糸を売って縄を買った」という言葉が、日本国内で喧伝されたと伝えられる。アメリカでは日米繊維交渉に関わる新聞報道を少なくともワシントンポスト紙を含め一般紙では日にすることはほとんどなかった。アメリカにとって日米

繊維交渉は、取るに足らない問題 (minor matter) だったからである。現在も基本的には変わらないが、アメリカのメディアには国を挙げて取り組む問題とそうでない問題との間には明確な線引きが出来上がっている。

68年アメリカ大統領選挙に、しばしタイムスリップしていただきたい。共和党大統領候補、リチャード・ニクソンは、ベトナムからの名誉ある撤退を謳い、選挙戦をリードしていた。民主党候補、米副大統領、ヒューバート・ハンフリーの激しい追い込みで一時は、逆転されたニクソンが1.4%という僅差でからくもハンフリーに勝った。

アメリカ南部は南北戦争以来、伝統的に民主党が圧倒的に強い。本来ならハンフリー有利の地盤だ。南部は綿花地帯(コットン・ベルト)が東西に横に長く延びる米繊維産業最大の産地である。選挙戦も大詰めの68年8月21日ニクソン候補は「当選すれば、毛、化合繊混紡を含む繊維製品の輸入割当に関する国際協定を締結すべく交渉を行う」と宣言した。

米大統領選挙は、オセロゲームと同じで、1票差で勝っても、州全体の票が勝った候補に転がり込む。議会有力者のサーモンド上院議員のおひざ元、サウスカロライナでニクソンが勝ったことが、大統領選に僅差で勝つ決め手となった。大差で勝てば公約は守られない。反面、僅差での勝利には公約にどうしても縛られる。それが米大統領選挙の不文律である。

公約を盾に米繊維産業の圧力団体であるATMI(米国繊維製造業者協会)は、当然のごとくニクソンに圧力をかけた。ニクソンは、大統領就任早々の69年2月6日、「繊維は、特殊な問題であるので、輸出国の自主規制によって処理できないか関係国との協議を行っている」と発言した。ニクソンの指示を受けたスタンズ米商務長官の日本含む韓国、台湾、香港訪問が決まった。スタンズ長官は、5月10日~13日の間、日本に滞在した。寝耳に水の日本政府と米スタンズ長官との交渉は当然のことながら決裂した。

被害なきところに規制なし

68年1月に米関税委員会がまとめた米国繊維産業実態調査報告書には、①米国繊維産業はかつてない急成長を果たした、②安価な輸入品は低所得者を助けている、③輸入により特定の製造業者の利益や雇用に影響を与えた資料はないとあった。日本の繊維業界は「被害なきところ規制なし」と日本政府に強く抗議した。

当時、日米繊維交渉の業界側の陣頭指揮にあたっていたのは、旭化成工業社長、日本化学繊維協会会長の宮崎輝氏であった。氏の勉強熱心はつとに有名である。氏は現場の情報を重視された。空港からワシントンDC市内のホテルまでの車の中で、矢継ぎ早に鋭い質問を筆者に浴びせた。「要約は不要。オリジナルを用意しろ。全ての資料は自分で目を通す。」それが氏の口癖だった。余談に

なるが氏はオールドパーがお好きだった。ホテルにオールドパーを2ボトル用意するようにとの指示が東京からあった。日米の時差は14時間である。日本は昼、アメリカは当然深夜、宮崎会長からダイレクトに電話がかかる。オリジナルに当たる生き様が正に宮崎流だった。宮崎輝会長にご縁をいただき感謝している次第である。

日米繊維交渉の話に戻す。69年5月、当時、モーリス・スタンズ商務長官を日本に派遣、日本に輸出自主規制を迫った。その一方で、前出のサーモンド上院議員にも圧力をかけ、当時、貿易法案で米議会最大の実力者、ウイルバー・ミルズ歳入委員会委員長が「日本が繊維自主規制に応じなければ、米議会は輸入割り当て法案を通す」と発言させるまで事態はエスカレートしていた。語学研修生返上、名実ともに駐在員となり、俄然忙しくなった。

佐藤ニクソン密約の存在、日本でも次々明るみへ

69年11月ワシントンDCで開かれた佐藤ニクソン会談の際、密約が交わされたことが2011年2月18日、「佐藤総理が、日米首脳会談の際にニクソン米大統領から手渡されたメモを日本政府某事務官が記憶により記したもの」として写真付きで外務省によって公表された。

公表されたメモの内容は「毛製品および化合繊製品に、包括規制に加えて個別品目ごとに上限(シーリング)を設ける」などと書かれ、メモの上部に「Top Secret」(最高機密)と書かれていたと新聞各紙が夕方から翌朝にかけて一斉に報道した。この間の事情は、佐藤首相の密使として派遣された国際政治学者、若泉敬氏の著書「他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス」(文芸春秋社刊、1994年)に詳細に書かれている。若泉氏は佐藤栄作元首相の密使として活躍した。同書では、氏は、日米「核密約」の存在も明らかにしている。

2004年5月26日、米国立公文書館で、Henry Kissinger Telephon Conersation Transcript (Telcons) が公開された。詳細な内容が、中央大学教授、信夫隆司氏が「佐藤-ニクソン会談の舞台裏」 - キッシンジャーと若泉敬のテレコンーと題して、「政経研究第42巻第3号」に紹介されている。特に国際政治に関心のある現役の甲陽学院生には、示唆に富む、興味ある書のひとつであろう。夏休みにでも時間が許せば、読んで欲しい。お互いを暗号で呼び合う、キッシンジャー氏と日本の密使若泉敬氏との一言一句の余りにも生々しい電話のやり取りは、鬼気迫るものがあり、興味は尽きない。

ワシントンを舞台として、繰り広げられた日米繊維交渉では、佐藤総理が、氏の懐刀と言われた大平正芳、宮沢喜一というエースを次々投入、必死に問題解決に当ったが果たさなかった。万策尽きた佐藤首相は、田中角栄氏を通産大臣に任命、日米繊維交渉はようやく決着した。いろいろな人がワシントンDCを訪れ、それぞれの人が忸怩たる思いで帰国された。中でも下田駐米日本大使は「日本の繊維業界は土足で床の間に上がり、滅茶苦茶にしてくれた」と語った。こじれにこじれた繊維交渉の顛末に憤懣やるかたない風だった。

甲陽同窓生との不思議な縁に感謝

話は尽きない。しかし、紙数が尽きた。甲陽学院との縁としては、日米繊維交渉ワシントン取材記者団の一員で、日本経済新聞記者として、若武者、意気軒昂そのものの菅谷定彦氏(38回生、現テレビ東京会長)が参加していた。繊維交渉最中、忙中閑ありで、フィラデルフィア大学留学中の早崎健氏(38回生、元住友海上火災保険取締役)と現地美術館巡りをしたことも懐かしい思い出として残っている。残念ながら氏は既に鬼籍に移られた。

いまひとり多鹿和夫(49回生、前トレンザ社長)との出会いは正に奇遇である。氏は米繊維大学留学前の語学研修生として訪米、69年6月から数ヶ月間、自宅マンションに同宿、単身赴任、昼夜忙殺されていた筆者のおさんどん役を買って出てくれた。氏と過ごしたその期間、ワシントンでの繊維交渉は佳境に入っていた。氏は、一部始終を承知していたはずだ。しかし、一切他言することなく09年9月に鬼籍に移られた。ワシントン時代を語り合える友を失い無念でならない。

むすび

アメリカ人は足元を蚊が刺した程度では動じない。しかし、のど元を食いちぎられると判断すれば、猛然と襲いかかってくる。日本の繊維業界はミルズ歳入委員長のお墨付きを得て輸出自主規制宣言した。それを聞いたニクソンは約束が違うと、真っ赤になって怒ったと、RedMadNixonなる言葉が当時ワシントンの関係者の間で真しやかに語られた。日米関係重視を大義名分に、佐藤内閣は繊維規制を飲んだ。

まるで付き物が落ちたように71年7月9日、ニクソンはキッシンジャー補佐官を密かに中国に派遣、周恩来と会談した。7月15日に日本頭越しに中国承認を宣言した。まさかの8月15日、ドルと金との兌換停止発表である。密約を反故にされたニクソンの怨念ここに極まるの感を深くする次第である。

日米繊維交渉を蛮勇ふるって解決した田中角栄首相は、一気呵成に日中国交回復を断行した。ワシントン近郊のダレス空港で「よくお会いしますね」と言葉を交わした相手が、大手総合商社、M社お忍びの駐在員だったことが、ロッキード事件に発展したあと分かった。日米繊維交渉とロッキード事件、その皮肉な巡り合わせを付記して稿を終えたい。(了)

[筆者紹介]

著書

1938年 神戸市生まれ

1961年 大阪府立大学経済学部卒業 同年 日本化学繊維協会入社 米国ワシントンD C 駐在 3 年

日米繊維交渉に携わる元理事、大阪事務局長

現在 江嵜企画代表、各種講演会講師 執筆連載中「学校で教えてくれない経済学」

「Kenさんのスケッチ&コメント」

「ユニークに乾杯」 「麦わら帽子は冬に買え」 「老いるマネーは宝の山かし





会員だより

35回 29B会〈35回B組〉

平成23年5月24日の夕刻、B組の15名がハービスOSA KA「ガーデンシティ クラブ大阪」で歓談に興じた。

60年ほど前には紅顔の坊主頭だった友が、それぞれいろいろな人生を経て、今は年相応に息災であることをお互いご同慶の至りと、タイムスリップしたかのような時を過ごした。

友の一人松本君のヒルトンプラザ・ニコンサロンでの「去来の街」と題した写真展(5月19日~25日)で、普段街で見かける何げない風景の写真を観てから集まったからかも知れない。

阿部、荒木、泉、大菅、国領、塩谷、柴田、鈴木、中野、 中村(貞)、中村(文)、藤田、松本、三木、山崎の諸君が 参集した。

塩谷洋一



44回 物理部〇B会報告

私たち44回生の高校物理部OBは、毎年年末に43回生OBとともに部長であられた中島博先生をお招きして忘年会を行ってきています。一昨年、先生が奥様を亡くされたとき、先生をお慰めするため、有馬六甲に44回生OBで一泊旅行をいたしました。これがその後、毎年続行は老境に入った我々にもパワーを与えてくれる行事となっています。今年は4月に琵琶湖畔から比叡山に回りましたが、先生から立派な紀行文が写真とともに届きましたので同窓生の方々や旧職員の皆さまにも先生のお許しを得てご披露する次第です。なお紙面の都合で内容を先生の承諾を得て縮小編集しております。今回の参加者は先生のほかに、梅木・小濱・高野・林の総勢5名です。

(林 正朗 記)

第一日

三井寺:「園城寺」といかめしく書かれた石碑のある仁 王門からまっすぐに入る。境内は意外に人が少なく、 立派なお堂が点々とあり、娑婆を離れたおごそかな感 じで、なんとなく心が落ち着くような気がする。建物 もみな美しく立派だ。金堂へお参りしたあと近江八景 で名高い「三井の晩鐘」の鐘楼や鐘を拝見。その他三 重の塔、西国十四番札所「観音堂」など多くの堂塔伽 藍に参拝できた。次のような芭蕉の句碑があった。

三井寺の門たたかばやけふの月(芭蕉)

車へ戻る途中琵琶湖疎水の取り入れ口を見た。両側の 土手が水の流れる方向に高くなっていたので、水が高 い方へ流れているような感じがしておもしろかった。

琵琶湖博物館:博物館に着いたのが昼をすこしまわっていたので、とりあえず館内のレストランで昼食。バスやナマズの丼があったが敬遠して琵琶湖特産の丼にしてみたら、バスとナマズのてんぷらが両方入っていた。なかなか立派な博物館で琵琶湖周辺の自然、地誌、昔の風俗など充実していた。さらに淡水魚を種類多く飼育している水族館があった。日曜日であったので多くの家族連れでにぎわっていた。博物館の建物を出て水生植物公園・水の森公園へブラブラ歩く。

水生植物公園:先づ目に入るのが巨大な風力発電機。 説明板では約200KWの電力を生み出しているらしい。 はじめて風力発電機を見て大いに参考になった。色と りどりの花がプランターに植えられていて目を楽しま せる。ガーデニングに興味のある人にはいろいろ参考 になることが多いだろう。やがて一同車に乗って走り だすや否や大粒の雨が降り出したが間一髪濡れないで すんだ。こんどの旅行は天気が不安定で、晴れたり、 曇ったり、時にしぐれたり(あられのときもあったし、 雷もあった)であったが不思議に雨に濡れず、ついて いた。

琵琶湖大橋:琵琶湖大橋に向かう。湖の一番狭いところ を渡る橋である。東から西に渡ったが西の端に近いと ころが一番高くなっていて、この下を船が通るらしい。

浮御堂:橋を渡って少し南下した浮御堂のある満月寺に向かう。竜宮城のような山門をくぐり、湖につきでた渡り廊下を通って浮御堂にのぼる。これが名高い近江八景の一つ「堅田の落雁」の場所である。形のよい小さなお堂だが、この中で酒でも飲みながら東からでる満月を眺めたらさぞ楽しいことだろうと感じた次第であった。

湖西荘 (三菱電気保養所): 比良にある保養所というから山に近いのかと思ったら、湖畔と言ったほうが当っていた。案内書では収容人員45名とあるが、そのわりには贅沢な作りだ。盛たくさんな今日の旅の疲れをいやすには十分だ。大きな湯船の風呂に入ったあと、夕食となる。やはり琵琶湖の宿舎らしく、夕食には川魚が多くでた。めずらしかったのは氷魚(鮎の稚魚)を具の入った土鍋に入れて色が白くなったところで生卵を鍋に投入、具と一緒に食べるものであった。なかなかうまい。ビールや焼酎などもうまかった。

今日の天気、観光の感想など雑談に花がさいて楽しい夕食であった。一人も故障なく一日楽しく過ごせたことを感謝して就寝。

第二日

竹生島:近江今津は昔は北陸から京、大坂をむすぶ物 資の輸送路として重要な港であったに違いないが、鉄 道やトラックにとって代わられた現在ではやや寂しい 感じの港である。朝の湖面を渡ってくる風が大変冷た く、思わずエリをたてなければならなかった。やがて、 小さな観光船に乗って竹生島に向かう。島がすぐのよ うに見えていたが、案外遠くて時間がかかった。島の 付近は琵琶湖で最も水深のあるところで100米を越え るところもあるそうだ。桟橋に降りたって土産物屋の 並んでいる前を通り過ぎると、境内へ入るための入場 料400円が必要であった。長い石段を登って一番上に ある本堂(弁財天堂)にお参りしてご利益を願う。下 りは清水の舞台のようになっている屋根付きの渡り廊 下「舟廊下(重文)」を通って国宝「都久夫須麻神社 本殿」から「かわらけ投げ」のできる「龍神拝所」な る建物を通って下山。下船から帰りの乗船まで約1時 間半ほどの間に十分お参りできた。再び観光船で近江 今津に帰る。小濱君の勧めで今津商店街にある川魚料 理店で鰻飯を食べることにする。

川魚料理店:今津港からすぐのところの商店街。店の表にはいろいろな川魚の佃煮がみやげものとしてならんでいた。2階の個室に案内されてしばしくつろぐ。小濱君の注文で鰻飯がでてきた。大きな桶にご飯と鰻がはいっていて、めいめいが適当にしゃもじで茶碗にすくってたべる。その他いくつかの一品もでていた。なかなかおいしかった。ビールも少し飲んでたのしい食事であった。食事のあと、やはり小濱君のすすめでメタセコイアの並木道を見にゆくこととなった。

メタセコイアの並木道:今津からさらに北へ車を走らせることしばし。琵琶湖も北の端に近いマキノに到る。マキノ高原からスキー場に向かう一本の舗装道路を走ることしばし。目を疑うような光景が現れてきた。高々とそびえたつメタセコイアの大木が整然と道の両側に並んでいる。おおげさだが日本にもこんなところがあるのかと驚いた。あとで案内書をみると本数500本、長さ2.4kmとある。メタセコイアは杉の仲間だが、冬落葉する。我々が行ったときはすこし小さな葉がでていたので、幹や枝の茶色と小さな葉の薄緑が混じった色であった。葉がすっかり茂った新緑のとき、葉が色づく秋、積雪で木が白い帽子を着るときなどそれぞれの美しさがあるらしい。別の季節にも来てみたいものだと思った。

比叡山:坂本から比叡山登山自動車道に入り尾根筋の横川などを通って根本中道の駐車場に着く。延暦寺という寺は広大な敷地があり、いたるところに堂塔伽藍があって見て回るには一日かかるところだ。今回は帰りのちょっとした寄り道であったので、大講堂と根本中道にお参りした。根本中道は昔から僧たちが勉強する場所らしく、いくつもの経机が並んでいた。また

800年来灯明を絶やしたことのない御聖灯なるものが 正面の壇上に灯籠ごしに光を放っていた。参拝の間に 延暦寺会館というところで休憩。コーヒーや紅茶で一 息つくことができた。帰りはぐねぐねと曲がりくねっ た道を降り京滋バイパスから来たときの逆コースで尼 崎に向かう。5時ごろ尼崎ロータリーについて解散。

2日間の予定が実にうまくたてられていて充実した 旅行であった。特筆すべきは天気がとてもきまぐれで あったが、不思議に雨に濡れることもなく愉快な旅が できたことである。これも多くの寺や神社にお参りし たご利益のたまものだろう?また、まったく事故もな く、皆元気で旅行を楽しめたことはとてもよかったと 思う。



(左から2人目が中島先生です)

>「生物甲陽」21年がりに発行√



生物部の歴史は60年を越え、今ではOB部員も300名以上を数えるまでに発展しております。そしてこのたび、21年ぶりに「生物甲陽」第17号を無事発行することができました。顧問の先生、現役部員の皆さん、OB部員の皆様、有田和男会長はじめ同窓会の皆様、中村公子様(故中村泰三先生の奥様)、堀内謙二様(中村先生を偲ぶ会)、西村公男様(甲陽メーリングリスト)、その他この活動にご協力いただいた多くの方々に感謝の意を表します。

礒村宜和 (71回)

硬式庭球部有志の会

平成22年10月15日、第二回目のテニス部有志の会を29回 ~49回卒のメンバーを対象に、9年振りに芦屋国際ローンテニスクラブで開催いたしました。

昼間は久し振りにラケットを握られた方も居られましたが、楽しくプレーをして夕方から近くのレストランで懇親会を持ちました。当日の出席者は15名で、この中にはこの会の発起人である全日本高校選手権準優勝の善野史郎さんをはじめ学生時代に優秀な成績を残された北村彬さん・菅谷定彦さんも出席していただきました。

皆様の近況や楽しかった部活の思い出に花が咲き、至福 の時をすごすことが出来ました。いずれ又再会出来ること を願って散会いたしました。

出席者: 小西(29回) 善野(33回) 岸田(33回) 北村(35回) 石原(36回) 矢田(36回) 澤井(37回) 安光(37回) 吉田(37回) 菅谷(38回) 北条(39回) 畑(39回) 本庄(43回) 渡部(49回) 野口(49回)

(吉田記)



67回 同窓会 静先生ライブ

日時:平成23年1月2日(日)14:00~16:00

場所:ライブハウス FORTWORTH (IRさくら夙川)

私たち67回の同窓生では年1回正月の1月2日に同期会をすることにしています。今年の1月の同期会では静先生にカントリーのライブをしていただき大いに盛り上がりました。約20名の同期が集まり、一人づつ近況を話すこともでき、楽しい時間を過ごしました。

今年は卒業25周年ですので、8月の会員総会でもたくさん集まりたいと思います。

梅谷幸弘(67回)



第8回同窓会ゴルフ報告

中村貞三(35回)

4月17日いつもの武庫の台ゴルフコースで標記コンペを 9組35名参加の下、行いました。

当日は快晴・快温、これ以上の好天は無いと言うぐらい 快適なゴルフ日和に恵まれました。ゴルフに快晴・快温は 必須条件だと再認識しました。優勝は庭屋和夫君(59回) 39-38グロス77で圧倒的強さを見せてくれました。彼は永 年アメリカで修行してきた心臓外科医で、昨年まで国立循 環器病院に居ました。庭屋君の優勝スピーチ『サッカー部 でお世話になった「貞さん」こと中村貞三先生に二年越し に強いお誘いを受け続け、今回の同窓会ゴルフに参加させ ていただきました。桜が満開で、気候も申し分なく、言い 訳のできない状況でのプレーでしたが、若田、中村の両サ ッカー部の先輩と、同業の後輩でゴルフにも真面目に取り 組まれている伊東先生とのラウンドはとても調子よく進 み、結果、幸運にも優勝トロフィーを手にいたしました。 甲陽だよりでは同級生(59回)が芸術や学問で華々しく紹 介されてきましたが、中学高校とスポーツしか目立つとこ ろのなかった劣等生の登場の仕方は、結局、スポーツがら みでした。先輩方の若々しさに触れて、生涯スポーツとし てのゴルフに感謝した一日を過ごしました。』





第84号



次回第9回同窓会コンペご案内

10月16日(日)「武庫の台ゴルフコース」

※8時00分集合

8時20分アウト・イン分かれてスタート

※プレーフィー ¥14,000 (昼食代参加賞ボール含む)

※懇親会費 ¥3,000

※賞品は各自お家で眠っている¥3,000相当の品物を ご持参下さい。

10組40名満ち次第締め切り

参加申し込みは下記の何れかへ締め切り9月30日

中村貞三(35回)

072-777-1009 TEL&FAX

Eメール teisan@d4.dion.ne.jp

携帯メール teisan51257767@docomo.ne.jp



清水清一郎氏(27回) 10年1月	道盛 靖治氏 (26回) 10年7月13日	横山 吉雄氏(25回) 10年10月29日	宮原 晃一氏(25回) 11年2月11日	高井 敏昭氏 (25回) 11年 2 月 28 日	河野 恒文氏(25回) 11年1月31日	井田 千治氏(24回) 10年11月4日	河野 雅次氏(24回) 10年12月1日	岩崎 徹氏(23回) 10年7月30日	今井 一郎氏 (23回) 10年7月23日	榊原 淳孝氏(22回) 10年1月9日	菅野 常男氏 (22回) 10年 9月 27日	阪口市太郎氏(21回) 11年4月1日	阪口 剛氏 (18回) 07年12月20日	四ツ井正雄氏(17回) 10年12月23日	福島 良郎氏(17回) 04年9月22日	岡本 俊輔氏(16回) 10年8月11日	志田 博美氏 (15回) 09年 8月 28日	高森 良平氏(14回) 10年8月29日	謹んで哀悼の意を表します。	事务司では宝记会員の近ちの報こ妾(ま)に。	報 (平成23年5月31日現在)
西尾 良一氏	上林 昭夫氏	藤田 勝美氏	高井 敏昭氏	日野 勝海氏	山本 伴滋氏	松本 正義氏	田中宏平氏	小川 銀三氏	渡辺 二郎氏	滝川登司郎氏	小田 皓司氏	小屋 光雄氏	野口伸一氏	宮田 和幸氏	大津	小寺 慶彦氏	松本 璋三氏	信保	石阪 健三氏	。二木 通之氏	熊谷 茂雄氏
氏 (工経)	氏 (工経)	天氏 (工専1)	咒(工専1)	氏(高商	X氏 (高商 3)	発氏 (高商	干氏 (高商	三氏(高商3)	氏(高商2)	氏(高商	氏(高商1)	氏 (59 回)	氏 (51 回)	氏 (49回)	一郎氏 (36回)	氏 (35回)	三 氏 (33 回)	氏 (32 回)	三氏 (29 回)	氏 (28:30回)	氏 (28 回)
10年2月11日	10年11月21日	1) 11年2月28日	1) 11年2月28日	4) 10年12月10日	3) 11年2月19日	3) 11年3月26日	3) 10年6月16日	3) 10年9月20日	2) 10 年 9 月	2) 11年 12月 27日	1) 11年4月14日	11年2月1日	10年8月14日	10年8月9日	10年5月24日	11年4月20日	10年9月30日	10年9月4日	10年12月8日	3回) 11年 2月 17日	10年5月15日

告 知 板

☆ サッカー定期戦 9 月に ☆

甲陽vs灘サッカー定期戦は例年6~7月に開催しておりますが、本年は9月11日(日)を予定しております。その理由は、この8月に灘高校のグラウンドが人工芝グラウンドに改修される予定で、これにあわせて、新しいグラウンドのこけらおとしとして、サッカー定期戦を開催しようというものです。昨年に続いて、灘高校での開催となりますが、OBの皆様、奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。また、来年は、できれば例年の時期に、60回記念大会として甲陽学院の主催で行う予定です。1月3日の初蹴り会にも是非ご参加ください。

森本 保(51回)

☆ ご注意!住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務所」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をして いる事実はありません。

皆様には、先方の名前・住所・電話番号などをご 確認いただいて、慎重な対応をお願いいたします。

☆ -お願い- 住所変更の届け ☆

- *会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が 転居先不明で戻ってきます。
- *その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先 の調査を行い再発送を行っています。事務局の確 認作業にも限界があります。住居を移転された時 は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願い します。
- *各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ 甲陽史学会例会開催のお知らせ ☆

日時:平成23年8月28日(日)

午前9時30分~午前11時

場所:ノボテル甲子園

報告者:大国正美(神戸深江生活文化史料館長)

テーマ:「酒井一さんと近世地域史研究」

本年1月逝去された酒井一氏(31回・三重大学名 誉教授・大塩事件研究会会長)を偲び、生前の知遇 もあり、同じ専門分野について現在伊丹・宝塚・東 播を研究フィールドとして多方面にわたり活躍され る報告者に語っていただきます。

甲陽史学会は田岡香逸氏、高井悌三郎先生、宮川秀一先生により発足し、現在その名を継承し、甲陽学院同窓会の協力を受け、甲陽学院関係者を中心に活動しています。同窓生諸氏のご参加をお待ちしています。資料準備の都合上、出席希望者は橋本(41回)0798-47-8574(TEL・FAX)にご連絡ください(当日参加も構いません)。

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した92回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、前に振込用紙同封の文書にてご案内した通りです。今からでも構いません。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.4の表をご覧下さい。

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集☆

- *次号・第85号は、来年2月末頃に発行を予定しています。
- *「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文 化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発 表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」など のご投稿をお待ちしています。
- *原稿の締切日は、来年1月10日です。

夏の会員総会 講演会

アルツハイマー病:目前に迫った根本的治療法の開発に向けて

東京大学大学院医学系研究科·神経病理学分野教授 岩坪 **威**(59期卒業)

高齢化社会が本格化し、我が国でも65歳以上の高齢者人口は全人口の23%、3千万人に近くを占めるに至りました。その10%を越える方々が、認知症に苦しまれています。アルツハイマー病は老年者認知症の約2/3を占め、原因として最も多い疾患です。症状としてはもの忘れで始まることが多く、数年以上の経過で言語、行動、判断力など様々な認知機能が障害され、独立した生活を営むことが困難となります。アルツハイマー病の最大の要因は加齢ですので、ヒトが長寿を獲得したことと裏腹に生じた宿命なのかもしれません。

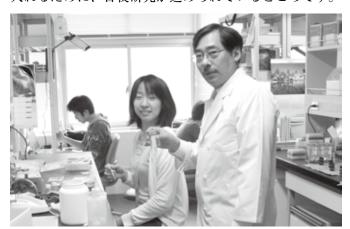
アルツハイマー病では、脳の老化が異常に進み大脳につよい萎縮が生じます。大脳皮質には、神経細胞が抜け落ちるのとは裏腹の関係で、2種類の異常な構造物が出現してきます。それが「神経原線維変化」と「老人斑」です。神経原線維変化はろうそくの炎のような形をしたかたまりで、「タウ」と呼ばれるタンパク質からできており、死んでゆく神経細胞の中にできます。老人斑は「シミ」あるいは斑点状の構造で、細胞の外側に「 β アミロイド」といわれるタンパク質の固まりができたものです。この老人斑こそが、アルツハイマー病の原因として注目されている病変です。

 $A\beta$ は、約700個のアミノ酸からなる長い「前駆体蛋白」(APP)の途中の部分が切り取られてできます。つまり、 $A\beta$ ができる際、APPに2回はさみが入る必要があります。最初のはさみは「 β セクレターゼ」と呼ばれるタンパク質切断酵素でした。ところが「しっぽ」を切り出す酵素「 γ セクレターゼ」が何からできており、どのように働くのかは謎でした。

まれな遺伝性(家族性)アルツハイマー病の原因となる遺伝子「プレセニリン」の発見が解明のきっかけとなりました。アルツハイマー病のごく一部に、メンデルの優性遺伝の法則に従って、親から子へアルツハイマー病が受け継がれてゆく家系が存在します。1995年、カナダのヒスロップ博士は、家族性アルツハイマー病を起こす遺伝子として「プレセニリン」を発見しました。この遺伝子からできるプレセニリンタンパクました。この後の研究から、プレセニリンはカウレターゼの「ハサミ」そのものであることがわかりました。また、変異が生じるとハサミの性質が変わって、たまりやすい A β 42をつくりやすくなり、アルツハイマー病が発症することもわかりました。そこで γ セク

レターゼや β セクレターゼなどの「ハサミ」を抑える ことがアルツハイマー病の予防や治療に有効ではない かと考えられるようになりました。

現在、多くの製薬企業が、「セクレターゼ」を抑える 薬剤を開発し、アルツハイマー病の患者さんに投与し て、治療効果を確かめる「治験」を開始していますが、 まだはっきりした効果が確認された薬剤はありません。 認知症が完成したあとでは、アルツハイマー病の進行 を抑えることは難しいのではないかとの見方もありま す。そこで、症状の軽い早期段階でアルツハイマー病 を診断し、症状以外の指標(脳の萎縮など)で薬の効 果を確認する方法が必要になっています。MRIやP ETスキャンなどの「画像診断」や、脳脊髄液検査な どの「バイオマーカー」を使って、早期段階のアルツ ハイマー病の進み方を確認し、治療薬の評価方法を作 ろうとする "J-ADNI" (ジェイ・アドニ) という 臨床研究が、いま日本全国で進行中です。アルツハイ マー病を予防・治療できる有効な薬を一刻も早く手に 入れるために、日夜研究が進められているところです。



2009年メトライフ医学研究賞を受賞

アルツハイマー病の解明や治療開発に貢献した研究者に 米国のメトライフ財団(メトライフ生命保険が設立)から 贈られるメトライフ医学研究賞をアルツハイマー病の原因 となる $A\beta$ (ベータアミロイド)を生成する酵素「ガンマー (γ) セクレターゼ」の働きを解明した岩坪教授が2009年に 受賞した。日本人では恩師の井原康夫同志社大学教授(東 京大学名誉教授)に次いで 2 人目。発症を抑えようと、こ の酵素の働きを抑える阻害薬はアルツハイマー病の根本的 治療薬として有望視されており、開発競争が進んでいる。

2010年ヘンリー・ウィズニェフスキ賞を受賞

2010年、米国アルツハイマー協会より国際アルツハイマー病カンファレンス(ICAD)を創立したアルツハイマー病研究者の業績を記念して創設された賞を受賞しました。 J-ADNI(厚生労働省、経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構NEDOなどの後援で2007年から始まった臨床研修)のプロジェクトリーダーを務める岩坪教授に超早期アルツハイマー病の画像・バイオマーカー・臨床指標の確立の推進が評価され贈られたもので、日本人の受賞は初めて。

夏の会員総会

アルツハイマー病 目前に迫った予防と治療

−岩坪 威 東京大学大学院 医学系研究科 教授 を迎えて−

8月28日(日) 11時~15時 ノボテル甲子園にて

夏恒例の今年の会員総会は下記の要領で開催致しますので、同窓の先輩、同輩、後輩、友人、知人お誘い合わせ、 振るってご参加ください。ご家族の同伴も大いに歓迎いたします。

■第1部 式典と講演会

演題 「アルツハイマー病 目前に迫った予防と治療」 講師 岩坪 威(59回)



いま、アルツハイマー病患者は、世界で2600万人、日本には180万人以上いると推定されています。症状があらわれる10年前からベーターアミロイドという異常タンパク質が脳にたまり始め、その蓄積で脳の神経細胞が死に、記憶などの認知機能が低下するのが原因とされています。最近は高齢者だけでなく、18歳~64歳の若年患者も増えており、10万人はいるのではと言われていますが、今後高齢化が進むとますます患者が増えると予測される時、根本的治療薬の研究開発が急がれています。

昨年、一昨年と続けてアルツハイマー病の解明と治療の研究で米国の権威ある団体から賞を受けた甲陽59回生の岩坪威東京大学大学院教授。臨床医から医学系大学院、そして15年間の薬学系大学院での研究を経て、再び医学系大学院にカムバック。臨床・医学・薬学をオールラウンドに学んだ岩坪教授に、世界の最先端を行くアルツハイマー病の予防と治療研究の現況を語っていただきます。

〈プロフィール〉

昭和34年宝塚市生まれ、上甲子園小学校から47年甲陽中学校へ入学、丸坊主の白風呂敷姿で通学。高校時代はグリークラブで活躍、関西二期会テノールの竹田昌弘さんは小学校以来の同期で、甲子園の校舎最後の学年で、53年高校卒業後取り壊されたが、音響効果が素晴らしかった木造りの講堂や神戸での女子校との合同コンサートは懐かしい思い出となっているそうです。

医学を志したのは両親が阪大医学部同期の医者で、二人の叔父も医者という環境に恵まれていたからで、阪大への憧れもあったが、今より多い40人位が東大に行き、宮本茂先生の進学指導もあって東大を目指したそうです。

脳の研究を始めたのは、顕微鏡を見て脳の標本をスケッチ医学

部の脳研究施設に通ったのがきっかけだそうです。

59年東京大学医学部卒業。61年東京大学医学部附属病院神経内科入局。国立水戸病院、日本赤十字医療センター、東京都老人医療センターを経て、平成元年東京大学医学部助手。4年東京大学薬学部客員助教授。10年東京大学大学院薬学系研究科教授。19年東京大学大学院医学系研究科教授、国家プロジェクトであるJーADNI主任研究者となる。21年アルツハイマー病研究の功績により米国メトライフ財団から「メトライフ医学研究賞」受賞。22年米国アルツハイマー病協会からJーADNIでの業績により「ヘンリー・ウィズニェフスキ賞」を受賞された。

■第2部 懇親会 -東日本再生へエールを送ろう-

今年は東日本大震災被災地の子ども達へあしなが育英会を通じて同窓会からの義援金寄贈式や、被災地仙台から長谷川隆文東北大学大学院医学系研究科助教・病棟長による現地からの声発信や、東北から阪神地区に避難中の山本亜希子さんによる地唄舞(写真)、山本・三浦由紀子両嬢と評論家河内厚郎氏(52回・写真)とのトークと盛りだくさんの内容です。

今回主役のホームカミング学年は 42回(卒業50年)、57回(卒業35年)、 67回(卒業25年)です。舞台登壇と記 念品(校章入り記念ストラップ)を用 意していますので是非ご参加を。

ご寄贈いただいた辰馬本家酒造の 清酒山田錦とサントリーのプレミア ムビール、リザーブウィスキーを堪 能して甲陽健児に還るひとときをお 楽しみください。総合司会はいつも の真下貴(69回・写真)NHKアナウン サーです。



第 84 号

地唄舞の山本亜希子さん



河内厚郎氏



真下 貴氏

information

日 時 平成23年8月28日(日)

第1部 11時~12時45分 第2部 13時~15時

会 場

ノボテル甲子園 TEL 0798-48-1111

会 費

一般会員 今年のみ一部を東日本大震災被災地の子ども達へ「あしなが育英会」を通じての寄付に充当するため、7,000円(当日会費)とさせていただきます。

学生会員 2000円(当日会費) 同伴家族 2000円(当日会費) 新会員(平成23年3月卒) 無料 問合せ先

同封の振込用紙で、8月18日(木)までに会費をお振込み下さい。 あるいは8月22日(月)までに事務局まで参加の予約を下さい(葉書、電話、ファックス、メールいずれでも可)。この場合は特別 割引として、一般会員6,500円、学生会員・同伴会員は 1500円とさせていただきます。

甲陽学院同窓会事務局

〒662-0096 西宮市角石町3-138

TEL 0798-71-4888(月·水·木·金) 10時~16時

(8月12日~19日は母校夏期閉鎖期間につき不在です)

FAX 0798-71-4890

Eメール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

☆当日の料理、名札の準備がありますので、できるだけ事前振込~ご予約をお願いいたします。